

製鐵獎勵法並關係法規

農商務省鑛山局調

目次

- 一、製鐵業獎勵法
- 二、同上施行令
- 三、同上施行規則
- 四、製鐵設備計畫認可申請書記載例
- 五、製鐵業獎勵法施行規則第二條ニ依ル事業計畫屆書記載方注意事項
- 六、同上製鐵能力増加計畫屆記載方注意事項
- 七、同上施行規則第六條ニ依ル事業報告書記載例
- 八、船舶建造及修繕用物品承認規則
- 九、同上取扱方ニ關スル件(通牒)
- 一〇、海軍艦船建造及修繕用鋼材使用證明規則
- 一一、獎勵金ノ交付ヲ受クルニ要スル手續說明書

一、製鐵業獎勵法

(大正六年法律第二七號、改正大正十年法律第七九號)

- 第一條 一ノ場所ニ於テ一年三萬五千佛噸以上ノ製銑能力又ハ製鋼能力ヲ有スル設備ヲ以テ營ム製鐵事業ハ土地收用法第二條ノ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業トシ同法ヲ適用ス。前項ノ規定ニ依リ他人ノ土地收用又ハ使用シ得ヘキ製鐵事業ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第二條 一ノ場所ニ於テ一年五千二百五十佛噸以上ノ製銑能力又ハ製鋼能力ヲ有スル設備ヲ以テ製鐵事業ヲ營ム者ニハ

命令ノ定ムル所ニ依リ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ十年間其ノ場所ニ於ケル事業ニ付營業稅及業務ヨリ生スル所得ニ對スル所得稅ヲ免除ス。前項ノ規定ニ依リ營業稅及所得稅ノ免除ヲ受クヘキ製鐵事業ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 一ノ場所ニ於テ一年五千二百五十佛噸以上ノ製銑能力又ハ製鋼能力ヲ増加スル設備ヲ爲シタルトキハ能力増加ノ年及其ノ翌年ヨリ十年間ノ増加シタル能力ニ付前條ノ規定ヲ準用ス

第四條 前二條ノ規定ニ於テ五千二百五十佛噸トアルハ低燐銑鐵製造事業及電氣製鐵事業ニ付テハ二千五百佛噸トス

(大正十年法律第七九號ニテ改正)

前項低燐銑鐵ノ標準成分ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 農商務大臣ノ認可ヲ受ケタル計畫ニ基キ命令ノ定ムル期間内ニ製鐵能力ノ設備又ハ其ノ能力増加ノ設備ヲ完成スルトキハ其ノ完成ノ年ヲ以テ第二條ノ開業ノ年又ハ第三條ノ能力増加ノ年ト看做ス。前項ノ規定ニ依ル設備完成前其ノ設備ニ依リ事業ヲ營ム場合ニ於テモ其ノ能力ニ付營業稅及所得稅ヲ免除ス但シ前項ノ期間内ニ設備ヲ完成セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六條 製鐵ノ事業ヲ繼續スル者又ハ其事業ヲ繼續スルモノト認ムヘキ事實アル者ハ前事業者カ本法ニ依ル營業稅及所得稅免除期間内ニ在ルトキハ其ノ期間ヲ繼承ス

第七條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準スヘキモノハ本法ニ依リ營業稅及所得稅ヲ免除セラレタル製鐵事業者ニ對シ其ノ免除セラレタル部分ニ相當スル資本金額、從業者、營業用ノ工作物若ハ物件、使用動力又ハ收入ヲ標準トシテ

課税スルコトヲ得ス但シ市町村其ノ他之ニ準スヘキモノニシテ特別ノ事情ニ基キ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此限ニ在ラス

第七條ノ二 帝國內ニ於テ製造シタル鋼材カ船舶ノ建造又ハ修繕ニ使用セラレタルトキハ政府ハ其ノ鋼材ノ製造者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ獎勵金ヲ交付スルコトヲ得（大正十年法律第七九號ニテ本條追加）

第七條ノ三 詐欺ノ行爲ヲ以テ前條ノ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シテハ其ノ金額ヲ償還セシム。前項ノ規定ニ依ル償還金ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次クモノトス（大正十年法律第七九號ニテ本條追加）

附 則

第八條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正六年勅令第二百二十五號ヲ以テ同年九月一日ヨリ施行）

第九條 本法施行ノ際現ニ製鐵事業ヲ營ム者本法施行後三年內ニ一ノ場所ニ於テ第二條ノ能力ヲ有スル設備ヲ爲スニ至リタル場合ニ於テ開業ノ年ノ翌年ヨリ十年ヲ經過セサルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ殘期間第二條ノ規定ヲ準用ス

第十條 本法施行前ヨリ一ノ場所ニ於テ第二條ノ能力ヲ有スル設備ヲ以テ製鐵事業ヲ營ム者其ノ開業ノ翌年又ハ第三條ノ能力ヲ増加スル設備ヲ爲シタル年ノ翌年ヨリ本法施行ノ日迄二十年ヲ經過セサルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ殘期間第二條又ハ第三條ノ規定ヲ準用ス

第十一條 第四條及第五條ノ規定ハ前二條ノ規定ノ適用ニ付之ヲ準用ス

第十二條 第一條ノ能力ヲ有スル製鐵事業ノ設備又ハ一ノ場所ニ於テ一年三萬五千佛噸以上ノ製銑能力若ハ製鋼能力ヲ増加スル設備ヲ爲ス爲必要ナル器具、機械其ノ他ノ材料ヲ輸入スルトキハ本法施行ノ日ヨリ十年間勅令ノ定ムル所ニ依リ輸入税ヲ免除ス本法施行ノ際現ニ製鐵事業ヲ營ム者本法施行後三年內ニ一ノ場所ニ於テ一年三萬五千佛噸以上ノ製銑能力又ハ製鋼能力ヲ有スルニ至ル爲必要ナル設備ヲ爲ス場合亦同シ

大正十年法律第七九號附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十年勅令第三百三十二號ヲ以テ同年七月二十日ヨリ施行）

本法施行ノ際電氣製鐵事業ヲ營ム者ニ付テハ第九條乃至第十一條ノ規定ヲ準用ス

二、製鐵業獎勵法施行令

（大正六年勅令一二六號 改正大正十年勅令第三三三號）

第一條 製鐵業獎勵法ニ依リ他人ノ土地ヲ收用又ハ使用シ得ヘキ製鐵事業ハ銑鐵、鋼鐵、壓延鋼材（軌條及繼目鈹ヲ含ム）、鍛鋼製品若ハ鑄鋼製品ノ素材又ハ農商務大臣ノ指定シタル副生物ノ製造ニ關スル事業トス營業税及所得税ノ免除ヲ受クヘキ製鐵事業亦同シ

第二條 低磷銑鐵ノ標準成分ハ磷ノ含有量萬分ノ四以下トス低磷銑鐵製造事業ニ付營業税及所得税ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ開業又ハ能力増加前其ノ事業ノ計畫ニ付農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ。前項ノ規定ニ依ル認可ハ農商務大臣低磷銑鐵ノ製造不確實ト認ムルトキハ之ヲ取消スコトヲ得

第三條 製鐵業獎勵法第五條第一項ノ期間ハ製鐵能力一年三萬五千佛噸未滿ノ場合ニアリテハ二年、十萬佛噸未滿ノ場合ニアリテハ三年、二十萬佛噸以上ノ場合ニアリテハ五年内ニ於テ農商務大臣之ヲ定ム。前項ノ期間ハ農商務大臣災害其ノ他已ムヲ得ザル事由アリト認ムルトキハ一年ヲ限り之ヲ延長スルコトヲ得

第四條 所得稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ所得稅法第七條又ハ第八條ノ規定ニ依リ所得ヲ申告スルトキ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スヘシ。前項ノ場合ニ於テ免除ヲ受クヘキ事業ヨリ生スル所得ト其ノ他ノ所得トヲ有スルトキハ之ヲ區別シタル計算書ヲ添附スヘシ

第五條 營業稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ營業稅法第十三條ノ規定ニ依リ營業名及課稅標準ヲ申告スルトキ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スヘシ。前項ノ場合ニ於テ免除ヲ受クヘキ營業ト其ノ他ノ營業トヲ兼營スルトキハ之ヲ區別シタル内譯書ヲ添附スヘシ

第五條ノ二 製鐵業獎勵法第七條ノ二ノ獎勵金ハ左ニ掲クル鋼材ニシテ本令施行後ノ製造ニ係リ其製造者又ハ其ノ製造者ヨリ之ヲ讓受ケタル者カ鐵鋼船ノ建造又ハ修繕ニ使用シタルモノニ付之ヲ交付ス但シ國ノ工場ニ於テ製造セラレタル鋼材ニ付テハ此限ニ在ラス

(一)鋼塊及鋼片(鍛造用ノモノ)、(二)條及竿(テ-形、ア-ン-グ-ル形等ノ形狀ヲ有スルモノ及タービンブレードイン-グ-ヲ含ム)、(三)板、(四)筒及管(鑄タルモノヲ除ク)

前項第一號ニ掲クル鋼材ヲ其ノ製造者カ加工シテ讓渡シタルトキハ其ノ素材タル鋼材ニ付獎勵金ヲ交付ス(大正十年

勅令第三三三號ニテ本條追加)

第五條ノ三 獎勵金ノ交付ヲ受ケムトスルモノハ其ノ者カ鋼材ヲ船舶ノ建造又ハ修繕ニ使用セムトスル場合ニ在リテハ其ノ使用ノ前、其ノ他ノ場合ニ在リテハ鋼材引渡ノ前ニ其ノ鋼材ノ種類、數量、用途、製造時期及製造工場ヲ記載シタル届書ヲ農商務大臣ニ提出スヘシ

前項ノ届書ニハ其ノ鋼材カ海軍艦船以外ノ船舶ノ建造又ハ修繕ニ使用セラルル場合ニ於テハ造船者又ハ船舶修繕者カ農商務大臣ノ定ムル事項ニ付キ管海官廳ノ承認ヲ受ケタルコトヲ證スル書面ヲ添付スヘシ

第一項ノ届書ニ記載シタル事項ニ變更アリタルトキハ其ノ變更ノ事項ニ付遲滯ナク農商務大臣ニ届出ツヘシ

第二項ノ管海官廳ノ承認ヲ受ケタル事項ニ變更アリタルトキハ其ノ變更ノ事項ニ付造船者又ハ船舶修繕者カ管海官廳ノ承認ヲ受ケタルコトヲ證スル書面ヲ添附シ遲滯ナク農商務大臣ニ届出ツヘシ(大正十年勅令第三三三號ニテ本條追加)

第五條ノ四 獎勵金ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ前條ノ規定ニ依リテ届出ヲ爲シタル鋼材カ海軍艦船ノ建造又ハ修繕ニ使用セラレタルトキハ海軍官憲ノ鋼材使用證明書ヲ添附シ其ノ他ノ船舶ノ建造又ハ修繕ニ使用セラレタルトキハ鋼材使用説明書及造船者又ハ船舶修繕者カ受ケタル管海官廳ノ竣工承認書寫ヲ添附シ獎勵金交付申請書ヲ農商務大臣ニ提出スヘシ(大正十年勅令第三三三號ニテ本條追加)

第五條ノ五 獎勵金ノ金額ハ鋼塊及鋼片ニ付テハ其ノ價額ノ一割二分、其ノ他ノ鋼材ニ付テハ其ノ價額ノ一割五分トス

前項ノ價額ハ第五條ノ第三項ノ使用又ハ引渡ノ時ニ於ケル其ノ鋼材ト同種ノ鋼材ノ輸入ノ際ニ於ケル到著價格ヲ標準トシテ農商務大臣之ヲ定ム（大正十年勅令第三三三號ニテ本條追加）

第六條 農商務大臣必要ト認ムルトキハ營業稅及所得稅ノ免除ヲ受ケムトスル者又ハ獎勵金ノ交付ヲ受ケムトスル者ヲシテ製鐵事業ニ關スル書類又ハ製鐵原料若ハ製品ノ試料ヲ提出セシメ當該官吏ヲシテ製鐵事業ニ關スル設備、帳簿其ノ他ノ物件ノ檢査ヲ爲サシムルコトヲ得（大正十年勅令第三三三號ニテ改正）

第七條 收稅官吏必要ト認ムルトキハ前條ノ檢査ヲ爲スコトヲ得

附 則

第八條 本令ハ製鐵業獎勵法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第九條 本令ハ施行ノ年ニ於テ免除スヘキ營業稅及第三種ノ所得ニ係ル所得稅ハ其ノ年ノ決定稅額ニ依リ月割ヲ以テ之ヲ定ム。本令施行ノ日ノ屬スル事業年度ニ付免除スヘキ第一種ノ所得ニ係ル所得稅ハ其ノ事業年度ノ決定稅額ニ依リ月割ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 本令施行ノ年ニ於ケル第四條又ハ第五條ノ申請ニシテ其ノ期限ノ經過シタルモノハ本令施行後一月内ニ之ヲ爲スヘシ

第十一條 第三條ノ規定ハ製鐵業獎勵法第十一條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十二條 輸入稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ヘキ器具、機械其ノ他ノ材料ノ種類ハ第一條ニ掲クル製鐵事業ノ爲必要ナル

物ニシテ農商務大臣ノ指定シタルモノニ限ル。輸入稅ノ免除ヲ受クヘキ物ヲ輸入セムトスル者ハ豫メ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十三條 輸入稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ輸入申告ヲ爲ス場合ニ於テ前條第二項ノ規定ニ依リ認可書ヲ添附スヘシ。

第十四條 輸入申告ハ製鐵事業者ノ名ヲ以テスルコトヲ要ス

第十五條 輸入稅ノ免除ヲ受ケタル物ヲ目的タル用途ニ供セサルトキハ其ノ輸入稅ヲ追徵ス但シ其ノ物ヲ製鐵業獎勵法ニ依リ輸入稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ヘキ他ノ用途ニ使用セムトスル場合ニ於テ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ旨稅關ニ申告シタルトキハ此ノ限リニ在ラス

第十六條 稅關官吏必要ト認ムルトキハ第六條ノ檢査ヲ爲スコトヲ得

大正十年勅令第三三三號附則

本令ハ大正十年法律第七十九號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（同法律ハ同年七月二十日ヨリ施行）

本令施行ノ際電氣製鐵事業ヲ營ム者ニ付テハ第九條乃至第十一條ノ規定ヲ準用ス

三、製鐵業獎勵法施行規則

（大正六年農商務省令第一八號、改正大正七年農商務省令第五號、大正九年農商務省令第一三號、大正十年農商務省令第二三號）

第一條 製鐵業獎勵法施行令第一條ノ副生物ノ種類左ノ如シ

鑛滓綿、鑛滓煉瓦、鑛滓瓦、爹兒、無水爹兒、輕油、中油、重油、ピッチ、安母尼亞、安母尼亞水、硫酸安母尼亞、粗製ナフサリン、アンストラシン、ベンゾール、キシロール、トルオール、ソルベントナフサ

第二條 營業稅及所得稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ開業又ハ

能力増加前其ノ事業ノ計畫ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ。前項ノ規定ニ依ル事業計畫書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ但シ第四條ノ認可申請書ニ記載シタル事項ニ付テハ此ノ限リニ在ラス。

(一)製鐵所ノ位置及名稱、(二)資本額、(三)製鐵所設計ノ概要及設計圖、(四)工事著手ノ時期、(五)開業又ハ能力ノ時期、(六)生産品名及生産ノ順序方法、(七)一年間ノ生産品ノ種類別生産豫定額、(八)原料取得ノ計畫

製鐵事業中營業稅及所得稅ノ免除ヲ受クヘキモノト其ノ他ノモノトアル場合ニ於テハ其ノ區別ヲ明ニスヘシ。製鐵事業者法人ナルトキハ其ノ定款ヲ添付スヘシ

第三條 低磷銑鐵製造事業ノ計畫ニ付農商務大臣ノ認可ヲ申請セムトスル者ハ其ノ申請書ニ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ(一)前條第二項第一號、第二號及第四號乃至第七號ニ掲

クル事項、(二)製鐵所設計ノ明細及設計圖、(三)鐵鑛、燃料及煤熔劑ノ生産地、成分並其ノ取得豫定總量及期間、(四)電氣製鍊ノ場合ニ在リテハ電力供給ニ關スル事項

前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ原料トシテ使用スヘキ鐵鑛燃料及煤熔劑ノ試料ヲ提出スヘシ。前條第二項但書、第三項及第四項ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四條 製鐵業獎勵法第五條ノ規定ニ依ル認可申請書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

(一)製鐵所ノ位置及名稱、(二)資本額、(三)製鐵所設計及年別工事計畫ノ概要並設計圖、(四)年別工事費豫算、(五)設備完成ニ至ル迄ノ毎年ノ生産豫定額、(六)原料取得ノ計畫前項ノ申請書ニハ工事著手ノ初期ニ於ケル工事施行仕様書

及製鐵事業者法人ナルトキハ其ノ定款ヲ添付スヘシ

第五條 製鐵業獎勵法第五條ノ認可ヲ受ケタル者ハ設備完成ニ至ル迄其ノ前年ノ工事成績報告書ヲ毎年一月三十一日迄ニ、工事施行仕様書ヲ其ノ作製ノ都度農商務大臣ニ提出スヘシ

第五條ノ二 製鐵業獎勵法施行令第五條ノ三第一項ノ届出ヲ爲シタル者其ノ届書ニ記載シタル鋼材ヲ引渡シタルトキハ其ノ都度引取人ト連署ノ上其ノ種類、數量、用途、製造時期、製造工場及引渡時期ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ(大正十年農商務省令第二三號ニテ本條追加)

第五條ノ三 製鐵業獎勵法施行令第五條ノ三第二項ノ管海官廳ノ承認ヲ受クヘキ事項左ノ如シ(大正十年農商務省令第二三號ニテ本條追加)

甲 船舶建造ノ場合

(一)造船者ノ氏名又ハ名稱及住所、(二)工場ノ名稱及位置、(三)船舶ノ製造番號、(四)船舶ノ建造ニ使用スヘキ鋼材ニシテ獎勵金ノ交付ヲ受クヘキモノノ種類及數量、(五)起工及竣工ノ期日

乙 船舶修繕ノ場合

(一)船舶修繕者ノ氏名又ハ名稱及住所、(二)工場ノ名稱及位置、(三)一定期間ニ船舶修繕ノ爲使用スヘキ鋼材ニシテ獎勵金ノ交付ヲ受ヘキモノノ種類及數量

第五條ノ四 製鐵業獎勵法施行令第五條ノ四ノ鋼材使用説明書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スルコトヲ要ス(大正十年農商務省令第二三號ニテ本條追加)

(一)鋼材ノ使用者及工場

(二)建造ノ場合ニ在リテハ船舶製造番號、修繕ノ場合ニ在リテハ船舶ノ名稱

(三)使用鋼材ノ種類、數量、用途、製造時期及製造工場

(四)鋼材ノ製造者カ鋼材ヲ使用シタル場合ニ在リテハ鋼材使用ノ時期、其ノ他ノ場合ニ在リテハ鋼材引渡ノ時期

第五條ノ五 獎勵金ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ原料及燃料ノ購入消費、製品ノ生産販賣、其ノ他事業ノ狀況ヲ明ニスヘキ書類帳簿ヲ鋼材製造工場ニ備ヘ置クヘシ(大正十年農商務省令第二三號ニテ本條追加)

第六條 營業稅及所得稅ノ免除ヲ受ケムトスル者若ハ獎勵金ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ其ノ製鐵事業ニ付毎年一月三十一日迄ニ其ノ前年ノ事業報告ヲ農商務大臣ニ提出スヘシ(大正十年農商務省令第二三號ニテ改正)

前項ノ事業報告書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

一 事業概況

(一)資本總額、(二)從業者數、(三)職工勞働者數、(四)敷地面積、(五)工場建物ノ棟數及建坪、(六)原動機ノ種類、數及實馬力、(七)機關車及貨車數並軌道哩數、(八)汽船數及其ノ噸數、(九)生産品販賣高、(十)收支決算

二 製銑爐、製鋼爐、骸炭爐、壓延機

(一)種類及數、(二)能力、(三)操業日數、(四)生産額、(五)次年ノ生産豫定額、(六)能力增加其ノ他變更ニ關スル計畫

三 鍛鋼用主要汽槌及水壓機ノ種類、數、能力

四 製銑工場、製鋼工場、壓延工場其ノ他ノ工場

(一)固定資本額、(二)建物棟數及建坪、(三)建物賃賃價

格、(四)職工勞働者數

五 銑鐵、鋼鐵其ノ他ノ生産品

(一)數量、(二)價額

六 鐵鑛、石炭其ノ他ノ原料

(一)生産地、(二)數量

製鐵事業中營業稅及所得稅ノ免除ヲ受クヘキモノト其ノ他ノモノトアル場合ニ於テハ前項第二號乃至第五號ニ掲クル事項ニ付テハ其ノ區別ヲ明ニスヘシ

附 則

第七條 本則ハ製鐵業獎勵法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第八條 第二條ノ規定ハ製鐵業獎勵法第九條ニ依リ營業稅及所得稅ノ免除ヲ受ケムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第九條 製鐵業獎勵法第十條ニ依リ營業稅及所得稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ本則施行後一月内ニ其ノ事業計畫ヲ農商務大臣ニ届出ツヘシ其ノ届出テタル事項ニ變更ヲ生シタルトキ亦同シ。前項ノ規定ニ依ル事業計畫書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

一 第二條第二項第一號乃第三號及第五號乃至第八號ニ掲クル事項

二 開業又ハ能力増加後事業ノ繼續又ハ繼續ト認ムヘキ事實アリタルトキハ其ノ事實

三 最近三年間ノ生産品ノ種類及其ノ生産額

第二條第三項及第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十條 第三條ノ規定ハ製鐵業獎勵法第十條ノ場合ニ於ケル低磷銑鐵製造事業計畫ノ認可ノ申請ニ之ヲ準用ス但本則施行後一月内ニ其ノ申請ヲ爲スコトヲ要ス

第十一條 製鐵業獎勵法第五條及同法第十一條ノ規定ニ基キ本則施行前ニ完成シ又ハ工事ニ著手シタル製鐵能力ノ設備又ハ其ノ能力増加ノ設備ノ計畫ニ付認可ヲ受ケムトスル場合ニ於テハ申請書ニ左ニ掲クル事項ヲ記載シ本則施行後一月内ニ之ヲ提出スヘシ

一 設備完成ニ至ル迄ノ年別工事計畫ノ概要及其ノ施行ノ成績並設計圖

二 製鐵能力設備又ハ其ノ能力増加ノ設備ノ完成前其ノ設備ノ一部ニ依リ製鐵事業ヲ營ミタル場合ニ於テハ其ノ能力及其ノ設備使用開始ノ時期

三 製鐵能力ノ設備又ハ其ノ能力増加ノ設備ノ工事カ一計畫ニ屬スルモノナルコトヲ證明スルニ足ル事項

第十二條 輸入税ノ免除ヲ受クルコトヲ得ベキ物ノ種類左ノ如シ(大正七年農商務令第五號ニテ改正)(大正九年農商務省第一三號ニテ追加)

原料又ハ製品ノ起重機又ハ連續的運搬裝置

碎鑛機、鐵鑛選別機、磁選機、團鑛機及其ノ附屬裝置

鑄鑛爐、骸炭爐、混銑爐、加熱式混銑爐、平爐、轉爐、傾注式製鋼爐、熱電氣爐、瓦斯發生爐、加熱爐、均熱爐又ハ

瓦斯除塵機ノ構成金物及其ノ附屬機械

鑄鑛爐用捲揚機又ハ裝入機、鑄銑機、每分二百立方メートル

以上ノ送風機、乾風裝置及其ノ附屬機械、瓦斯清淨裝置及其ノ附屬機械、洗炭裝置及其ノ附屬機械、骸炭爐用裝炭機

押出機又ハ搗炭機、骸炭爐副生物捕集裝置及其ノ附屬機械

汽罐及其ノ附屬裝置、五百馬力以上ノ瓦斯機關、瓦斯發電

機又ハ排氣發電機及其ノ附屬裝置

鑄鍋起重機、製鋼爐用裝入機及其ノ附屬品、鋼塊抽出機、加熱爐又ハ均熱爐用鋼塊鋼片取扱機、壓延用ロール機及其ノ附屬裝置、壓延工場用輸送テーブル、鋸斷機、剪斷機、卷束機又ハ機械的冷却裝置精整用錐孔機、穿孔機、矯正機、鋸斷機又ハ剪斷機

ロール仕上機、ビニオン成齒機、鋼材鍛製用機槌、汽槌又ハ水壓機械裝置、強弱試驗機

前各號ニ掲クル機械ノ部分品及機械ト共ニ一組トシテ輸入セラルル附屬品、附屬原動力機又ハ原動力機ノ附屬裝置、壓延用ロール機ノ附屬原動力機及原動力機ノ附屬裝置

鑄鑛爐、熱風爐、骸炭爐、混銑爐又ハ製鋼爐用ノ耐火材料

電氣爐用炭素電極但シ直徑二十一吋未滿ノモノヲ除ク、工場建設用鐵骨、電鍍鐵板、硝子板及其ノ取附金物

第十三條 製鐵業獎勵法施行令第十二條第二項ノ規定ニ依リ認可申請書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

(一)輸入セムトスル物ノ種類、性質、能力、數量及豫定價額、(二)輸入セムトスル物ノ用途及之ヲ使用スヘキ工場其

ノ他ノ設備ノ説明、(三)輸入ヲ必要トスル事由、(四)製造者、輸出者及輸入豫定期、輸入豫定港(大正七年農商務省令第五號ニテ改正)

第十四條 輸入税ノ免除ヲ受ケタル物ヲ目的タル用途ニ供シ

タルトキハ遲滯ナク農商務大臣ニ届出ツヘシ目的タル用途ニ供セサルニ至リタルトキ亦同シ

大正十年農商務省令第二三號附則

本則ハ大正十年第七十九號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(同上法律ハ同年七月二十日ヨリ施行)

勵法施行規則第四條)

(一)製鐵所ノ位置及名稱

何府縣何町村何字何番地（製鐵工場ノ位置）、何製鐵所

(二) 資本金額何百萬圓、(三) 製鐵所設計ノ概要及設計圖

(イ) 敷地面積何坪

(口)
建物

名	稱	棟	數	坪	數
製	銑	工	場		
製	鋼	工	場		
壓	延	工	場		
何	工		場		
事	務	所			

(六) 何用原動機ノ種類、數、及實馬力何電動機何基何馬力、何々何基何馬力

(二) 製銑爐、何噸鎔鑛爐(高爐)何基、何噸電氣爐(何式何キ口)何基

各爐別使用熱風爐ノ種類、數及熱面積（ヒーティングサーフェス）、何キロ變壓器何基計畫最高電力何程

送風機ノ種類、送風能力、實際使用馬力及一分間ノ送風量竝送風裝置ノ有無、瓦斯除塵機又ハ乾風裝置ノ有無

(ホ) 骸炭爐、種類及數、一年間生產能力

(一) 製鋼爐、何噸平爐何基、何噸電氣爐(何式何キ口)

何基、何噸轉爐何基、何噸何爐何基、坩埚爐何基（何番

型又ハ何キ口入坩堝何箇裝入一箇一回ノ溶解量何程)
瓦斯發生爐ノ種類、大サ、箇數。

變壓器ノ種類、數、最高計畫電力

(卜) 壓延機、種類及數

各壓延機ノ一日ノ生産能力（生産シ得ヘキ鋼材ノ種類寸法ヲモ記載スヘシ）

(チ) 鍛鋼用主要機械、機械槌、汽槌又ハ水壓機ノ數、各機ノ能力

(リ) 其ノ他設計ノ概要

(又) 設計圖

全設計圖

製銑爐及製鋼爐ニ付テハ爐別ニ容量又ハ大サヲ明ニスルコトヲ得ヘキ設計圖

四、開業ノ時期

製銑何噸爐何基
何年何月。何噸何爐何基
何年何月。

製鋼何噸何爐何基
何年何月○何噸何爐何基
何年何月

(作業開始時期ノ異ナル毎ニ記載スルモノトス)

五、年別工事費豫算

[illegible]

備考 一、銑鐵は出銑高、鋼鐵ハ出鋼高、壓延鋼材ハ棒鋼、形鋼、鋼管軌條等ノ種類別ニ鍛鑄鋼品ハ素材ト製品ニ區分シ記載スベシ、二、生産品ノ種類毎ニ生産ノ順序方法ヲ備考ニ略記スヘシ

七、工事施行仕様書

工事著手ヨリ完成ニ至ルマテノ工事ニ付各工場ノ種類毎ニ施行順序著手及竣功豫定期等ヲ記載スヘシ但シ工事數年ニ涉リ仕様ノ確定セサルトキハ工事著手ヨリ作業開始ニ至ルマテノ初期部分ノ仕様ノミヲ記載スヘシ

八、原料取得ノ計畫

鐵鑛、滿俺鑛、石炭、骸炭、木炭、銑鐵、屑鐵、鋼塊、鋼片等ノ產地電力供給ノ場所及一年間ノ使用數量竝ニ供給契約ノ有無等ヲ記載スヘシ

九、定 款

法人ナルトキハ定款ヲ添附スヘシ

右計畫御認可相成度製鐵業獎勵法第五條ニ依リ申請候也

住 所
年 月 日
氏 名

農商務大臣宛

五、製鐵業獎勵法施行規則第二條ニ依リ届出ツ

へキ事業計畫書記載方注意事項

一 資 本 額

(イ) 製鐵事業ニ對スル資本金額ヲ記載シ尙ホ之ヲ固定資本運轉資本ニ區分スヘシ

(ロ) 製鐵事業中營業稅所得稅ノ免除ヲ受クヘキ範圍ノ事業(製鐵業獎勵法施行令第一條ニ掲クル事業ヲ謂フ)ト其ノ他ノ事業(鑄鐵仕上作業及之ニ關聯スル合金作業等

免稅ヲ受ケサル事ヲ謂フ)トヲ兼營スル場合ニ於テハ其ノ資本額ヲ區分スヘシ

(ハ) 製鐵事業ト其ノ他ノ事業ヲ兼營シ又ハ製鐵事業中營業稅所得稅ノ免除ヲ受クヘキ範圍ノ事業ト其ノ他トヲ兼營スル場合ニ於テ其ノ區分明カナラサルモノニ付テハ事業ノ分量、投入資本其ノ他ニ依リ適當ニ見積リ推定ヲ以テ記載シ其ノ事由ヲ附記スヘシ

二 製鐵所設計ノ概要及設計圖

(イ) 設計ノ概要ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

(1) 製鐵所敷地面積工場其ノ他諸建物ノ名稱棟數及建坪

(2) 使用原動機ノ種類數及實馬力

(3) 製 銑 爐

(一)種類及數、(二)各爐別計畫能力(電氣爐ニ付テハ爐及變壓器ノ電力)、(三)各爐別使用熱風爐ノ種類數及熱面積(ヒーティングサーフェス)、(四)送風機ノ種類送風能力實際使用馬力及一分間ノ送風量竝送風裝置ノ有無、(五)瓦斯除塵機又ハ乾風裝置ノ有無

(4) 骸 炭 爐

(一)種類及數、(二)一年間ノ生産能力

(5) 製 鋼 爐

(一)種類及數、(二)各爐別計畫能力(電氣爐ニ付テハ爐及變壓器ノ電力、坩堝爐ニ付テハ坩堝ノ數竝一箇一同ノ裝入量及製鋼量)、(三)瓦斯發生爐ノ種類、大サ及箇數

(6) 壓 延 機

(一)種類及數、(二)各壓延機ノ一日ノ生産能力(生産シ得ヘキ鋼材ノ種類寸法ヲモ記載スヘシ)

(イ) 鍛鋼用主要機械

(二) 機槌、汽槌又ハ水壓機ノ數、(二)各機ノ能力

(8) 其ノ他設備ノ概要

(9) 設計圖

(一)全設計圖、(二)製銑爐及製鋼爐ニ付テハ爐別ニ其ノ容量又ハ大サヲ明ニスルコトヲ得ヘキ設計圖

三 工事著手時期ハ基礎工事ニ著手シタル時期ヲ記載スヘシ

四 開業又ハ能力増加ノ時期ハ爐別ニ其ノ始メテ出銑又ハ出鋼ノ豫定時期ヲ記載スヘシ

五 生産品名及生産ノ順序方法

生産品ハ銑鐵、鋼塊、鋼片、壓延鋼材(棒鋼、形鋼、平鋼、
× 鋁鋼、鋼管、軌條、繼目鋁等ニ區分シ且ツ其ノ最小最大ノ
寸法ヲ記載スルコト)、鍛鋼品(主タル種類及重量ヲ記載ス
ルコト)、鑄鋼品(同上)、副生物(種類毎ニ區分スルコト)、
其ノ他製鐵業ニ關聯スル作業ノ生産品(同上)等ニ區分シ其
ノ生産ノ順序方法ヲ略記スヘシ

六 一年間ノ生産品ノ種類別生産豫定額

(イ) 生産品名ハ銑鐵、鋼鐵、鋼塊、鋼片、壓延鋼材(區
分ハ前號ニ依ル)鍛鋼品(同上)鑄鋼品(同上)副生物(同
上)其ノ他(同上)等ニ區分スヘシ

(ロ) 生産豫定額ハ銑鐵ニ付テハ出銑量、鋼鐵ニ付テハ出鋼
量、鋼塊鋼片ニ付テハ原料ニ供スルモノト雖モ總生産豫
定高ヲ記載スヘシ

七 原料取得ノ計畫ニハ鐵礦、滿俺礦、石炭、骸炭、石灰石

銑鐵、屑鐵、鋼塊、鋼片等ノ產地一年間ノ使用數量及供給
契約ノ有無等ヲ記載スヘシ

八 既設工場ヲ繼承シタルモノナルトキハ前經營者ノ住所氏
名及當該工場ノ沿革ヲ記載スヘシ

九 所得稅營業稅ノ免除ヲ受クルモノト其ノ他ノモノトアル
トキハ其ノ區分ヲ記載スヘシ

十 會社ナルトキハ定款ヲ添附スヘシ

六、製鐵業獎勵法施行規則第二條ニ依リ届出

ツヘキ製鐵能力増加計畫記載方注意事項

一 資本金額生産ノ順序方法、原料取得ノ計畫其ノ他ニシテ
曩ニ届出タル計畫書ノ記載事項ニ變更ナキトキハ其ノ旨ヲ
記載シ特ニ其ノ事項ヲ記載スルニ及ハス變更アリタルトキ
ハ變更後ノ事項ヲ記載スヘシ

二 製鐵所設計ノ概要及設計圖

(イ) 敷地面積及工場其ノ他諸建物ノ名稱及建坪ニシテ曩
ノ届出ニ對シ異動ヲ生シタルモノハ現在ノ分ヲ記載シ尙
ホ増加變更等ノ計畫アルトキハ其ノ種類、數、設備完成
ノ時期等計畫ノ概要ヲ記載スヘシ

(ロ) 使用原動機ノ種類及實馬力ニ付テハ前項ニ依ル

(ハ) 製銑爐、製鋼爐ニ付テハ増加スヘキ爐ノ種類、數、
各爐別計畫能力竝之ニ對スル熱風爐、送風機、瓦斯發生
機ノ種類、數、能力大サ等ヲ記載スヘシ

(ニ) 骸炭爐ヲ増加シタルトキハ現在ノ種類、數、一箇年
ノ生産見込額ヲ記載シ尙ホ増加計畫ノモノアルトキハ其
ノ種類、數、完成時期及完成後ニ於ケル一箇年ノ生産見
込額ヲ記載スヘシ

(ホ) 壓延機ヲ増加シタルトキハ現在ノ種類、數、及各壓延機一年ノ生産能力ヲ記載シ尙ホ増加計畫中ノモノアルトキハ其ノ種類、數、能力並完成時期ヲ記載スヘシ

(ヘ) 鍛鋼用汽槌又ハ水壓機ニ付テハ前項ニ依ル

(ト) 製鐵所ノ全設計圖ハ異動ヲ生シタルトキニ限り提出スヘシ製銑爐及製鋼爐ニ付テハ増加スヘキ爐ノ容量又ハ大サヲ明カニスルコトヲ得ル設計圖ヲ提出スヘシ但シ曩ニ提出シタル設計圖ニシテ増加爐ト其ノ容量又ハ大サヲ同フスルモノアルトキハ其ノ旨ヲ記載シ省略スルコトヲ得

三 工事著手ノ時期

(イ) 増加爐ノ築造ニ著手シタル時期ヲ爐別ニ記載スヘシ
(ロ) 増加工場ニ付テハ其ノ工事ニ著手シタル時期ヲ工場別ニ記載スヘシ

四 能力増加ノ時期ハ増加爐ニ付爐別ニ工事竣工豫定期及出銑又ハ出鋼豫定期ヲ記載スヘシ但シ増加爐ニシ既ニ作業ヲ開始シタルモノアルトキハ各爐別(番號ヲ附シタルモノハ其ノ番號トモ)ニ始メテ出銑又ハ出鋼ノ年月日ヲ記載スヘシ

五 一箇年ノ生産品ノ種類別生産豫定額ニ付テハ現在作業中ノ爐(既設爐及増加爐ニシテ作業開始ノモノヲ含ム)ニ對スルモノト増加計畫完成後ノモノニ區分記載スヘシ
追テ製銑爐製鋼爐其ノ他ノ増加計畫届出後其ノ増加設備ニ依リ實際作業ヲ開始シタルトキハ其ノ種類、數、能力、開始年月日(爐ニ附テハ出銑又ハ出鋼ノ日)ヲ其都度届出ツルコト

七、製鐵獎勵法施行規則第六條ニ依ル事業報告書記載例

何府(縣)何郡(市)何町(村)何番地
(製造場ノ位置)

何 製 鐵 所

一、十二月末日ニ於ケル事業概況

摘 要	免稅ヲ受クベキモノ	其ノ他ノモノ	計	備考
資本總額(投資額)				
固定資本				
運轉資本				
從業者數				
職工勞働者數				

(免稅ヲ受クルモノト其ノ他ノモノトアルトキハ其ノ區分ニ付左ノ例ニ依リ算出方法ヲ附記説明スルコト)

(イ) 固定資本ハ工場其ノ他築造物明細表ニ記載セルモノノ外何々價額何程ヲ何々ノ割合ニ依リ何程ヲ免稅ノ分ニ何程ヲ其ノ他ノ分ニ加算シタリ、(ロ) 運轉資本ハ何々何程ヲ何々ノ割合ニ依リ免稅ノ分ニ何程ヲ其ノ他ニ計算シ何々何程ハ免稅ノ分ニ何々何程ハ其ノ他ニ計算セリ、(ハ) 從業者數ハ何々ニ依リ區分計算セリ、(ニ) 職工勞働者數ノ區分ハ工場其ノ他築造物明細表ノ通

原 動 機	同 總 坪 數	工場敷地ノ總坪數	工場其ノ他、建物ノ總棟數
	坪	坪	棟

種 類	數	實 馬 力	一月ヨリ十二月ニ至ル一年間ノ生産品販賣高														
			同 噸 數	汽 船 噸 數	軌 道 哩 數	貨 車 數	機 關 車 數										
品 名	販 賣	移 出 及 使 用	計	備 考	銑 鐵	合金銑	鋼 塊	鋼 片	壓 延 鋼 材	鍛 鋼 素 材	鑄 鋼 素 材	鍛 鋼 製 品	鑄 鋼 製 品	鑄 鐵 品	合 金 品	何 々	
					數量 佛蘭	價 額	數量 佛蘭	價 額	數量 佛蘭	價 額	數量 佛蘭	價 額	數量 佛蘭	價 額	數量 佛蘭	價 額	數量 佛蘭

何々							
計							
摘要	免稅ヲ受ク	其ノ他ノモ	計	備考			
收入							
支出							
差引損益金							

(免稱ヲ受クルモノトアルトキハ其ノ區分ニ付左ノ例ニ依リ算出ノ方法ヲ附記
説明スルコト)

(イ) 製銑第何號何噸高爐ハ免稅ヲ受ケサルモノニ付能力ノ按分ニ依リ銑鐵販賣價額何程ノ内何程何々販賣價格何程雜收入何程ノ内何程ヲ免稅ヲ受ケサルモノトシテ計算セリ、(ロ) 製鋼、壓延鋼材、鍛鑄鋼素材製造ニ要シタル經費何程ハ免稅ヲ受クル爐ト其ノ他ノ爐ノ能力ノ按分ニ依リ何程ヲ免稅ヲ受クヘキ分ニ何程ヲ其他ノ分ニ計算シ鍛鑄鋼製品製造ニ要シタル經費何程及雜支出何程ノ内何々ノ割合ニ依リ何程ヲ免稅ヲ受ケサルモノニシテ計算セリ

二、製鐵作業明細表

製銑爐

製 鋼 爐	計			番號	種類	一日ノ生産力
		何キ口 電氣爐	何噸 高爐			作業開始年月日
						二月ヨリ十一月ノ間ノ生産額
				佛噸		翌年一月ヨリ十二月ノ生産額
				佛噸		免稅ノ別
		非	免			クルモノト其他ノ區別
						備考

番號	種類	一日ノ生産力	作業開始年月日	一月ヨリ十二月ニ至ル間ノ出鋼日數	翌年一月ヨリ十二月ニ至ル豫定生産額	免稅ヲ受クルモノト其他ノ區別	備考
計	骸炭爐	數	生産能力	一月ヨリ十二月ニ至ル生産額	翌年一月ヨリ十二月ニ至ル生産豫定額	備考	備考
種類	數	生産能力	一月ヨリ十二月ニ至ル生産額	翌年一月ヨリ十二月ニ至ル生産豫定額	備考	備考	備考
計	壓延機	數	生産シ得ル材同寸生産能力	一月ヨリ十二月ニ至ル生産額	翌年一月ヨリ十二月ニ至ル生産豫定額	備考	備考
種類	數	生産シ得ル材同寸生産能力	一月ヨリ十二月ニ至ル生産額	翌年一月ヨリ十二月ニ至ル生産豫定額	備考	備考	備考
計	能力増加ニ關スル計畫	區分	種類	能力	數	作業開始翌年中ノ豫定年月生産豫定額	備考
製銑爐							
製鋼爐							
骸炭爐							
壓延機							

變更ニ關スル計畫

製銑爐、製鋼、骸炭爐及壓延機ノ變更計畫ノ概要著手及完成豫定期並ニ完成後ニ於ケル生産高ノ増減ニ關スル事項ヲ記載スルモノトス

三、十二月末日現在鍛鋼用主要機械

名稱	種類	數	能力	生産品ノ重ナル種類	備考
汽 槌					
機 槌					
水 壓 機					

(増加若ハ變更計畫アルトキハ備考ニ其ノ概要ヲ記載スルモノトス)

四、十二月末日現在工場其ノ他築造物明細表

工場及築造物ノ名稱	棟數	坪數	免稅ヲ受クルモノト其他ノ區別	固定資本金	建物賃借價格	職工勞働者ノ數	備考
計							

(事業概況ノ部ニ記載セル固定資本額ト一致セサルトキハ左ノ例ニ依リ其ノ事由ヲ附記説明スルコト)

(イ)本表固定資本額ノ合計ト事業概況ノ部ノ固定資本額ト何程ノ差アルハ何々何程アルニ依ル、(ロ)職工勞働者何程ノ差アルハ何々ニ依ル

五、一月ヨリ十二月ニ至ル生産品明細表

六、一月ヨリ十二月ニ至ル使用原料明細表

品名	種類	數量	價額	備考
銑鐵	骸炭銑	佛蘭		
	本炭銑			
	再製鐵			
計				
合金銑	滿俺鐵			
	硅素鐵			
何々				
計				
鋼塊				壓延鋼材及鍛鋼品ノ原料ニ供シタルモノヲ含ム
鋼片				同
壓延鋼材	飯鋼			
	條鋼			
何々				
計				
鍛鋼素材				製品ノ原料ニ供シタルモノヲ含ム
鑄鋼素材				同
鍛鋼製品				仕上作業ヲ施シタルモノ
鑄鋼製品				
鑄鐵品				
合金品				
何々				

品名	種類	產地	用途	備考
鐵鑛	褐鐵鑛	内地	何々用	佛蘭
	磁鐵鑛	支那	何々用	佛蘭
何々		同	何々用	
計				
滿俺鐵		同		
石炭		内地	骸炭製造	
		何炭鑛	瓦斯發生	
		支那	汽罐其ノ他雜用	
計				
骸炭		内地	製鋼原料	
		何製造所		
銑鐵	何々銑	内地	製鋼原料	
合金鐵	何々鐵		何々用	
鋼塊			何々用	
鋼片			何々用	
鍛鋼素材			鍛鋼製品	
鑄鋼素材			鑄鋼製品	
屑鐵			何々用	
木炭			何々用	
石炭			何々用	
電力				ツキト時ワ
何々				

七、營業報告書及定款ハ別冊ノ通
右ノ通候也

住所

年 月 日

氏

名

農商務大臣宛

事業報告書調製ニ關スル注意事項

一 製鐵事業ト其ノ他ノ事業トヲ兼營シ又ハ製鐵事業中營業
稅所得稅ノ免除(以下免稅ト稱ス)ヲ受クヘキモノト其ノ他
(免稅ヲ受クヘカラサルモノヲ謂フ)ノモノトヲ兼營スルモ
ノニシテ其ノ區分明カナラサルトキハ事業ノ分量、資本、
其ノ他ニ依リ適宜ニ見積リ推定ヲ以テ記載シ其ノ事由及算
出ノ方法ヲ附記説明スヘシ

二 免稅ヲ受クヘキ事業ノ範圍ト其ノ他ノ區分ニ關シテハ左
記各號ヲ參照スヘシ

(一) 製鐵所ト所在ヲ異ニスル會社本店ハ他業ヲ兼營セサ
ル限リ製鐵業ヲ營ムモノトシテ免稅ヲ受ク

(二) 製鐵業ニ要スル木炭骸炭ノ製造所ハ製鐵所ト分離シ
アル場合ニ於テモ製鐵業ノ一部ト看做シ免稅ヲ受ク

(三) 原料製品等ノ運搬ニ專用スル製鐵所々屬ノ汽船ハ製
鐵業所屬ノ資産トシテ免稅ヲ受ク

(四) 製鐵所ト遠隔セル地ニ在ル製鐵所々屬發電所ニシテ
主トシテ工場ニ動力ヲ供給スルモノハ專ラ製鐵事業ノ範
圍ト認ムヘキ部分ヲ見積リ其ノ部分ニ對シ免稅ヲ受ク

(五) 銑鐵、鋼鐵、壓延鋼材鍛鋼製品ノ素材、鑄鋼製品ノ
素材及製鐵業獎勵法施行規則第一條ニ規定セル副生物ノ
製造ニ關スル事業ハ免稅ヲ受ク(製鐵業獎勵法施行令第

一條參照)

(六) 鑄鐵、製品ノ仕上作業及之ニ關聯スル合金作業等ハ
免稅ヲ受ケサルモノトス但シ自家用ニ供スルモノハ免稅
ヲ受ク

(七) 買入又ハ自己經營ニ係ル他ノ製鐵所ヨリ移入シタル
鋼塊若ハ鋼片ヲ以テ生産シタル鋼材ニ付テハ免稅ヲ受ケ
サルモノトス

(八) 鍛鋼製品ノ素材若ハ鑄鋼製品ノ素材ノ製造(免稅ヲ
受クヘキモノ)ト製品ノ仕上作業(免稅ヲ受ケサルモノ)
ノ範圍ハ左ノ區分ニ依ル

(イ) 鍛鋼製品ノ素材トハ最初ニ鍛鍊シ所要ノ大サニ切
斷スル迄即チ仕上機械ニ掛クル前迄ノ作業ヲ謂ヒ其ノ
後ノ作業ヲ製品ノ仕上作業トス

(ロ) 鑄鋼製品ノ素材製造トハ湯口ヲ切斷シ燒鈍爐ニ入
ルル迄ノ作業ヲ謂ヒ其ノ後ノ作業ヲ製品ノ仕上作業ト
ス

(九) 事務所、倉庫、製品検査場試驗場等ノ資本金、建物
賃貸價格從業者等ハ使用ノ直接タルト間接タルトヲ問ハ
ス免稅ヲ受クヘキ範圍ノ事業ニ使用スル部分ト其ノ他ノ
部分トヲ見積リ區分スルモノトス

三 免稅ヲ受クヘキ爐ト其ノ他ノ區分ニ關シテハ左記各號ヲ
參照スヘシ

(一) 開業ノ年及其ノ翌年ヨリ十年間免稅ヲ受ク

(二) 五千二百五十佛噸以上ノ能力アル爐ヲ増加シタルト
キハ其ノ爐ニ付テハ増加ノ年及其ノ翌年ヨリ十年間免稅
ヲ受ク

(以下次號)